

平成 26 年度 第 2 回豊橋市男女共同参画審議会 議事録

日 時	平成 26 年 9 月 30 日 (火) 午後 1 時 30 分～3 時 25 分
場 所	豊橋市役所 西館 4 階 災害対策本部室 (東側)
出席者	別紙のとおり
欠席者	なし
傍聴者	なし

(進行：市民協働推進課長)

1 開会

2 委嘱状の交付

※各委員による自己紹介、続いて事務局職員による自己紹介

3 議題

(仮議長：市民協働推進課長)

(1) 豊橋市男女共同参画推進条例について

※資料に基づき事務局が説明

(2) 会長及び副会長の選出について

※委員の互選による選出の結果、以下のとおり決定

○会 長 荒木 仁子

○副会長 木之下隆夫

(3) 審議会の運営について

※資料に基づき事務局が説明

**事務局** 議事録については、会議を録音した上で要旨をまとめて作成した後、2 名の委員に署名・押印していただく形になる。次回以降も同様の取り扱いとしていく。

**会 長** 本日は委員全員が出席しているため、会議は成立している。今回の議事録の署名については、会長・副会長を除いた 50 音順名簿により、安藤委員と伊藤委員にお願いしたい。

(4) 平成 25 年度事業実施結果について

(5) 平成 26 年度事業概要について

※資料に基づき事務局が説明

**委 員** DV相談について、市民協働推進課の相談窓口は言わば入口であって、シェルターや生活保護など福祉部局での支援につなげていく役割だと考えるが、そのような改善に向かった事例はどの程度あったのか。また、その後の経過は把握しているのか。

**事務局** シェルターに避難するには、本人や関係者の意思がしっかりと固まっている必要があるため、これまでに避難に至った事例はなかった。また、相談者のその後の経過の積極的な把握は行っていない。

**委員** 設楽町や三遠南信地域の女性団体との交流会が長く続いているが、隣接する他市との交流は行われていないのか。

**事務局** 既に県主催の人材育成事業を通しての交流や、各グループレベルでの交流が行われていることもあり、女性団体連絡会としての近隣市との交流会は行われていない。

**委員** 25年度は小学6年生に出前講座を実施しているが、どんな講義を行ったのか。具体的な内容や、講座の効果について聞きたい。

**事務局** 担任教師と事前に打ち合わせを行った上で、男女共同参画の視点から、キャリア教育について講義した。本来職業に男性・女性の区別はないこと、自分の得意なことや、やりたいことを生かした職業に就くことの大切さなどを説く内容となっている。事後アンケートの結果から、将来について考える機会を子どもたちに提供できたと考えている。

**委員** 啓発紙「花づな」について、以前は男女共同参画推進ネットワークが作成に携わっていたが、現在は作成を業者に委託している。どういった効果があるのか。

**事務局** 取材・紙面構成に専門業者が関わることで、市民の目にとまり、手にとって読んでもらえるような啓発紙となっていると考える。

**委員** 絵手紙の応募件数や出前講座の件数を見ると、男女共同参画が進んでいるのかどうか確信が持てないが、どのように考えているか。

**事務局** 例えば各種セミナーであれば、参加者数という数値が目に見えてわかるが、市民への浸透度という点では判断基準がなく、難しい。男女共同参画という言葉がある程度知れ渡った結果、実際には十分に進んでいないが、市民の関心が薄れつつあるようにも思えるので、引き続き啓発に力を入れていきたい。

#### 4 その他

- ・男女共同参画に関する市民意識調査について（報告）

※資料に基づき事務局が説明

**委員** 市内在住の20歳以上の男女3,000人を無作為に抽出して送付したとのことだが、その内訳はどうなっているか。また、結果の分析方法はどのように行われるのか。

**事務局** 今回は「20代」「30代」「40代」「50代」「60代」「70代以上」の6つの年代区分を設定し、各年代で男女各250名を抽出した。アンケートの集計後は、性別はもちろん、年代によって回答にどのような有意差があるかに着目し、分析を行っていく。

委員 アンケートの回収率を上げるために、どんな手法を考えたのか。今後の調査の手法として、例えば直接回収を実施したり、インターネットを活用した調査を実施してはどうか。

事務局 今回は回収率向上のためにさまざまな手法を検討したが、市の他の調査と足並みを揃える必要性があり、独自の取り組みは難しく、結果として回答しやすいアンケートとなるようレイアウト等を見直すのみに留まった。

委員 統計調査に関しては、一定の条件や形式を満たしていなければ調査結果として成立しないため、インターネット調査などに置き換えることはできないのではないかと。

事務局 おっしゃるとおり、市の計画や施策に反映させるための意識調査の方法を大きく変えることは難しいが、補助的な手法としての採用など、検討はしていきたい。

委員 市民協働推進課だけでなく、他の課においても男女共同参画を推進するために、職員を役職に任命するような取り組みは行っているのか。

事務局 男女共同参画推進員として指定された各所属の管理職が、男女共同参画の推進や意識の醸成に努めている。あわせて、推進員に対する研修も定期的実施している。

委員 「主人」「家内」といった家庭内での呼び方や、昔ながらの役割分担が根強く定着している点から見ても、意識改革にはまだまだ長い時間がかかるのではないかと。

委員 小学校へのお出前講座で話した男女共同参画に関する内容が、子どもたちを通して家庭内にもしっかり伝わっていくように、今後も繰り返し啓発を行っていただきたい。

会長 それでは、事務局は委員の皆さんのご意見などを今後の参考にしていただきたい。

閉会

平成26年10月24日

議事録署名者

安藤 春樹 ⑩

伊藤 友之 ⑩

## 第2回豊橋市男女共同参画審議会 出席者名簿

No	氏名	選任区分
1	あらき ひとこ 荒木 仁子	豊橋商工会議所女性会元会長
2	あんどう はるき 安藤 春樹	公募
3	いとう ともゆき 伊藤 友之	豊橋農業協同組合常務
4	きのした たかお 木之下 隆夫	愛知大学文学部教授
5	すずき しゅうじ 鈴木 脩二	豊橋人権擁護委員
6	すずき まりこ 鈴木 真理子	豊橋女性団体連絡会副会長
7	とさき ふみこ 戸崎 史子	公募
8	ほしの りえ 星野 里依	豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会会計

### <事務局>

文化市民部 部長 野尻 典夫  
 市民協働推進課 課長 中山 久美子  
 主幹 村田 直広  
 課長補佐 小久保 雅司  
 主査 伊藤 由美子  
 主事 青木 保憲  
 事務員 姜 上